

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	防火衣腰ベルトに付けていたテープスリングが走行中のホイールナットに巻きつき腰部を強く引っ張られた。
3. 体験した事例の中心的要素	出勤途上、進入路変更のため隊長が下車し、車両を誘導した後、再度、乗車した。このとき隊員からテープスリングが腰から垂れていることを知らされた。隊長は、乗車し、テープスリングを手繰りよせ、発進を指示するが完全に引き戻っていなかったため、ドア下部の隙間からホイール中心部にテープスリングが垂れたまま発進した。約20メートル進んだところでテープスリングがポンプ車左側前部のホイールナットに巻きつき、左腰部を強く引っ張られた。テープスリングと腰ベルトは、カラビナで繋がっていた。
4. 体験した事例の原因・理由	・テープスリングを完全に手繰りよせたことを確認しなかった。 ・防火衣腰ベルトにテープスリングをぶら下げていた。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年12月4日 午後5時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：火災出動途上、消防ポンプ自動車車内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	（機器等）巻き込まれ、はさまれ
7. 事例体験時の活動	火災出動途上、[その他]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[59]歳、勤続年数[41]年、現場経験年数[41] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [頻繁]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	進入路を変更するため車両を停車させる	
経過2	当事者A	下車し、車を誘導(後退)する	
経過3	当事者A	腰ベルトに下げていたテープスリングが解けた	
経過4	当事者A	テープスリングが腰ベルトから垂れる	
経過5	当事者A	隊長席(助手席)に乗車する	
経過6	当事者A	隊長席(助手席)でテープスリングを手繰る	
経過7	当事者A	完全に手繰りきったと思い、発進を指示する。	
経過8	当事者A	発進直後、腰ベルトが左へ強く引っ張られる。	
経過9	機関員	「バキッ」と大きな音がしたので車を止める	
経過10		左ドア下部とホイールハウス上部が変形	
経過11		上記の部分に破断したカラビナがある。	
経過12		テープスリングはホイールナットに巻きついている	

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

その他 : カラビナが早期に破断したため体が大きく引き込まれなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

事例活動状況

- 1 ①は①で進入路を変更するため下車した。
- 2 ①は車を誘導しながら後退した。この時点で束ねてあったテープスリングが解ける。(推定)
- 3 ②の地点まで車を誘導し、乗車の際、他の隊員からテープスリングが垂れていることを知らされる。
- 4 ②の地点で乗車(助手席)する。
- 5 助手席に座った状態で垂れているテープスリングを手繰りよせる。
- 6 機関員に発進の指示。
- 7 発進直後、腰ベルトが強く引っ張られる
- 8 ③(約20メートル)まで進んだところ「バキッ」と大きな音がしたので機関員は、停車する。
- 9 ①は、左腰部に痛みを訴える。
- 10 左ドア下部とホイールハウス上部との隙間に破断したカラビナがあり、ドアの下部とホイールハウスの上部は変形している。
- 11 ①に動けなく程の痛みはない。
- 12 ①は下車、テープスリングを見るとホイールナットに巻きついていた。

